

将来構想「平塚市民病院 Future Vision 2017-2025」の令和2年度中間評価について

【総合評価】

○自己点検（令和2年度上半期）

令和2年度は、当院の将来構想「平塚市民病院 Future Vision 2017-2025」の4年目となり、引き続き「持続的な健全経営の下、高度医療、急性期医療及び政策的医療を担い、患者さんの生命（いのち）を守る診療を行う」というビジョン達成のために更なる取組を進めました。ボトムアップによる病院改革・多職種連携の仕組みとして実施しているワークショップでの議論を基に、今年度のキーフレーズとして「早め早めのアプローチ」「チームワークで”つなぐ”医療」「全員コンシェルジュ 笑顔であいさつ」「仕事の成果の見える化」を重点項目として掲げました。また、現在将来構想の見直しを進めていますが、病院運営が安定してきていることから、基本的な考え方や方向性は変更せず、健全経営の下で、地域医療への貢献や質を向上させる取組を強化していきたいと考えています。

上半期は、前年度に発生した新型コロナウイルス感染症が病院運営に大きく影響し、非常に厳しい状況となりました。当院は、第二種感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス感染症患者に対応するとともに、地域の医療を守ることを第一に考え取り組んできましたが、不急手術の延期、感染症病棟設置による稼働病床数減少や患者さんの受診控えなどにより、「手術件数」や「1日当たり平均入院患者数」などが減少したほか、地域の救急患者の減少により、「救急搬送患者受入数」も減少しました。また、これまで開催していたクロスミーティング（開業医との連携の会）や「市民健康講座」など開業医との連携強化や市民・患者さん向けの活動についても中止せざるを得ない状況となりました。さらに、呼吸器外科医は着任しましたが、神経内科や呼吸器内科の常勤医師が減少するなど、医師確保は非常に厳しい状態が続いています。これらのことから医業収益が減少し、「医業収支比率」や「経常収支比率」が悪化しました。

しかし、地域の中核病院として、高度医療・急性期医療を担っており、新型コロナウイルス感染症対策を図り安心して受診できる環境を整えるとともに、重症患者や救急患者を受け入れています。また、平塚市の施策も踏まえた政策的医療である小児・周産期医療については、平塚・中郡地域における産科・小児科の二次救急当番を当院のみで担っているほか、唯一分娩ができる病院として役割を果たしています。新型コロナウイルス感染症の影響による患者数の減少などにより、厳しい経営状況となりましたが、「地域医療と市民生命を守る」という理念の下、病院運営を行うことで、地域医療機関、市民の皆さん、患者さんから信頼を得て「選ばれる病院」となることができると考えています。

今後も、引き続き職員一丸となって取組を進めるほか、教育の充実・キャリアアップの支援・採用活動の工夫など職員が成長を実感できる魅力ある環境を整えることで、人材を確保し、真に皆さんに求められる病院を目指します。

項目		H28	H29	H30	R1	R2	項目		H28	H29	H30	R1	R2
手術件数（中央手術室） ※R2目標値：4,400	上半期(件)	1,866	1,850	1,938	2,033	1,635	1日当たり平均入院患者数 ※R2目標値：370	上半期(人)	357.2	325.9	345.5	352.5	305.2
	年間(件)	3,696	3,630	3,937	4,007			年間(人)	353.4	327.7	350.1	348.9	
救急搬送患者受入数 ※R2目標値：8,200	上半期(件)	3,813	3,933	4,412	4,771	3,970	医業収支比率 ※R2目標値：92.7	上半期(%)	93.3	93.8	96.7	95.9※	78.1
	年間(件)	7,854	8,047	9,123	9,120			年間(%)	86.3	83.1	90.9	90.2	
経常収支比率 ※R2目標値：98.0	上半期(%)	111.8	112.4	106.1	104.9※	88.4	※精査の結果、令和元年度評価時点から変更になっています。						
	年間(%)	93.9	93.5	100.9	99.6								

○外部点検（平塚市病院運営審議会）

新型コロナウイルスの感染が拡大している状況での会議開催が困難であることから、年度終了後に1年分をまとめて点検する。

○市長からの意見・指示

市民病院は、新型コロナウイルスの感染が拡大する中で、第二種感染症指定医療機関として地域医療や市民の皆様の安全を守るための重要な役割を果たしてきた。一方で、患者数や収益の減少など病院運営は非常に厳しい状況なので、国・県の補助金など支援の活用を図ってほしい。また、最前線の職員は対応が長期化し、常に感染の恐怖にさらされながら緊張感を持って業務に従事しているため、健康状態を懸念している。

新型コロナウイルス感染症対応の先行きは不透明であるが、市民病院には、感染対策を図り、安心して受診できる環境を整えてほしい。また、将来構想に定めた方針に従い地域医療機関との連携の下、高度医療や急性期医療を提供して、政策的医療を担うことで経営の安定化を図り、市民の皆様や地域の皆様に良質な医療を持続的に提供してほしい。

【令和2年（2020年）度の診療機能及び指標等】

○診療機能

内容	具体的施策	令和2年度上半期	
		評価・検証（病院長）	評価・検証（病院事業管理者）
地域の中核病院としての高度医療・急性期医療を担います	「地域医療支援病院」として、高度医療・急性期医療の分野を担い、地域の医療機関と連携して、地域完結型医療の中で主要な役割を果たしています。	新型コロナウイルス感染症が流行しているものの、地域の医療を守ることを第一に考え取り組んでいます。前年度上半期と比して、手術件数は減少しましたが、重症患者への対応は着実に実施しており、地域の中核病院としての役割を果たすことができています。	新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するとともに、地域医療を守るため、不急手術の延期などを行いました。このため、手術数は減少しましたが、地域完結型医療の中で高度医療、急性期医療を担う中核病院として、重症患者への対応などは引き続き行ったことから、紹介率・逆紹介率や入院外来の診療単価は上昇しました。
救急医療体制を強化します	救命救急センターの指定を目指し、「断らない救急」を実践するとともに、救急搬送患者をより効率的に受け入れるよう体制を強化します。	地域の救急搬送件数と常勤の神経内科医の減少により、当院への救急搬送件数も前年度上半期と比べ減少した一方で、救急応需率は高い状態を維持しており、救急ワークステーション事業も実績をあげています。救急医をはじめとした常勤医師の充実が課題です。	新型コロナウイルス感染症の影響や神経内科医不足などで救急搬送患者数はやや減少しました。救急医が不足している状況は変わりませんが、救命救急センターとして「断らない救急」を実践し、高い応需率を保っています。
がん医療の充実に努めます	(1) 胃・大腸・肺・肝臓・乳がんの5大がんをはじめ、これまで力を入れてきた泌尿器科・婦人科領域のがんについても、高い診療レベルを維持します。 (2) 手術、化学療法、放射線治療とそれらの集学的治療に加えて、緩和ケアにも力を入れます。	呼吸器外科の常勤医師が確保できたことにより、引き続きがん診療の実績を積み重ねています。がん診療戦略室による更なる進化が期待されます。緩和ケア内科などの常勤医師の確保を目指します。	がん治療戦略として手術・薬物療法・放射線療法などを組み合わせた集学的治療を行うと共に、緩和ケアにも取り組んでいます。呼吸器外科医が着任して肺がん手術を再開することができ、順調に症例が増加しています。
地域の小児・周産期医療の中心を担います	(1) 公立病院として、地域で求められる小児・周産期の高度医療、救急医療に対応できる診療体制の維持に努めます。 (2) 妊娠・出産から、新生児・乳幼児・小児期を一貫した体制で診療します。	地域の小児・周産期救急医療を一手に引き受けており、更なる集約化、小児科医の確保が大きな課題です。	医師不足や不採算部門のために他院が小児・周産期医療を縮小していく中で、24時間365日高度医療・救急医療に対応しています。更に充実させるためには医師の増員が必要です。
地域包括ケアシステムにおいて急性期の病院としての役割を担います	急性期の病院として、急性期病態への対応や、地域の医療機関等への教育指導、情報共有に努めます。	地域医療連携のためのシステムである"クロスピッチ"は、在宅の往診医のサポートにも役立っています。多機関による連携を更に図っていく必要があります。	地域連携を推進し、逆紹介により外来患者の診療を診療所などをお願いすることにより、急性期患者中心の診療を行っています。地域包括ケアシステムの中で高度医療・急性期医療を行う病院としての立場を明確にしています。
災害拠点病院としての機能を充実します	(1) 自然災害に強い病院づくりを目指します。 (2) 災害時に多発する重篤患者の受け入れや、災害派遣医療チーム（DMAT）を派遣します。	井戸、災害用トイレなど当院のもつ設備の有用性を職員に積極的に紹介してきました。地震以外の水害などの対応も検討していく必要があります。	大災害に対応できる設備を持っており、災害時に対応できるよう訓練を行っています。

○指標等

項目	内容	令和2年（2020年）度目標値	令和2年度上半期		
			R2 上半期実績	評価・検証（病院長）	評価・検証（病院事業管理者）
外来	初診時保険外併用療養費	約4,000円（消費税抜）	H30/10/1から5,000円（税抜）	新型コロナウイルス感染症の影響で患者数が想定以上に減少したことで、稼働額も減少しました。しかし、外来縮小体制により、重症患者に着実に対応することで、診療単価は上昇しています。引き続き、通院不要の退院率のアップを軸に外来縮小の取組を進めていきます。	症状の安定した患者さんを逆紹介して外来を縮小していますが、新型コロナウイルス感染症による受診抑制などにより更に患者数は減少しています。がん薬物療法患者の入院から外来へのシフトや高価な薬剤を投与する患者の増加などにより、外来診療単価が上昇しています。引き続き高度医療・急性期医療を担う病院として対応すべき外来診療に特化していくように努めます。
	受診体制	一部（紹介率又は診療単価が低い）の診療科は「完全紹介制」とする	呼吸器内科、精神科が完全紹介制。R1.10～整形外科、R1.12～眼科の完全紹介制導入		
	1日平均患者数	約800人	693.3人		
入院	診療単価	約70,000円	60,282円	新型コロナウイルス感染症の影響による不急手術の延期などにより、手術件数は減少しましたが、入院診療単価は診療実績を基に算定すると前年度と同水準を維持しています。今後の方向性として、新型コロナウイルス感染症対策を図り、安心して受診できる環境を整えた上で、運用病床数の拡大、集中治療室増、救命救急センター病床増、新生児特定集中治療室管理料算定開始、周産期母子医療センターの認定やがん診療連携拠点病院の指定を考えていく必要があります。	新型コロナウイルス感染症の影響で不急の手術や検査を延期したことなどにより、患者数は減少しました。また、新型コロナウイルス感染症の対応に人手を取られています。重症患者には適切に対応することができ、診療単価は前年度と同水準を維持しています。当院における新型コロナウイルス感染症対策を医師会などに広報し、安心して紹介していただけるようお伝えしているところです。
	一般病棟（特定入院料算定棟を除く）の医療看護必要度	(約28%)	(37.7%)		
	特定入院料の算定（施設基準）	(1) 救命救急入院料	H29/7/1から救命救急入院料1算定開始		
		(2) ハイケアユニット入院医療管理料	ハイケアユニット入院医療管理料1		
(3) 小児入院医療管理料		H29/9/1から小児入院医療管理料3			
総合入院体制加算2の算定	平成29年（2017年）10月から算定開始	H29/8/1から算定開始			
その他	救急医療体制	二次救急輪番制と三次救急（救命救急センター運営による）	H29/4/1から二次救急輪番制と三次救急	新型コロナウイルス感染症の影響で地域の救急車搬送患者が減少したことなどにより、当院への救急搬送件数も減少しましたが、救急搬送対応に地域のニーズがあることが明らかです。このニーズをきちんと受け止めるためには、上記の機能強化と医療職・事務職の人員増が必要で。	新型コロナウイルス感染症の影響などにより救急搬送件数は減少していますが、軽症患者の減少が主となっていて、救急搬送患者の入院率は増加しています。救急医不足が課題でしたが、神経内科医不足も新たな課題となっています。また、麻酔科医が不足していますが、非常勤医を確保し対応できています。今年度4月に呼吸器外科医が着任し、手術を再開できました。現在、看護師不足は、解消しつつありますが、医師不足への対応のために更なる取組が必要です。
	救急搬送件数	約8,200件	3,970件		
	手術件数	約4,400件	1,635件		
	全身麻酔件数	約3,000件	1,117件		
	紹介率	約80%	77.8%		
	逆紹介率	約100%	111.1%		

Ⅰ 医療の質と効率の視点

評価	-
----	---

評価は、目標に対して「150%以上：S」「120%以上150%未満：A」「100%以上120%未満：B」「70%以上100%未満：C」「70%未満：D」とし、経営戦略（視点）は各KPIの達成率の平均で評価

令和2年度上半期（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）						
令和2年度上半期は、新型コロナウイルス感染症の影響で病院運営が非常に厳しい状況となりました。このような中で「救急搬送患者受入数」、「救急車搬送患者入院患者数」、「手術件数」、「全身麻酔件数」は減少しました。しかし、新型コロナウイルス感染症対策を図り安心して受診できる環境を整えるとともに、重症患者や救急患者を受け入れており、地域医療に貢献していると考えています。						
今後も、医師の確保、運用病床数の拡大や情報発信により目標達成を目指します。						

(ア) 重症度、医療・看護必要度（一般病棟） 単位：%

【関係部門】	診療部門、看護部門						令和2年度上半期
区分/年度		H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）
重症度、医療・看護必要度（一般病棟）	目標値	26.5	(27.0)	(27.5)	(28.0)	7対1入院基本料の施設基準を満たす重症度、医療・看護必要度を維持します。	「重症度、医療・看護必要度」の算定は、平成30年度と令和2年度の診療報酬改定により算定ルールが変更になり、従来の「7:1入院基本料」に相当する「急性期一般入院料1」の施設基準を満たすためには、令和2年度上半期時点で当院の算定方法の場合31%以上である必要があります。令和2年度上半期の実績は37.7%で、毎月31%以上であり、施設基準を維持しました。「重症度、医療・看護必要度」については、毎日、看護師が評価した後、病棟の看護師長が確認を行い、精度の高い評価を行っています。
	上半期実績	29.2	(34.0)	(33.4)	(37.7)		
	年間実績	28.8	(33.6)	(35.1)			
H28実績：29.4	評価	B	(A)	(A)	-		

※重症度、医療・看護必要度（一般病棟）=（基準を満たす患者の延べ数（特定入院料算定患者、自費患者を除く））/（入院患者延数（特定入院料算定患者、自費患者を除く））×100

※平成30年度及び令和2年度診療報酬改定により、算定ルールが変更になっています。

(イ) 救急患者受入数（産科及び小児科（周産期）を含む。） 単位：件

【関係部門】	診療部門、地域医療支援部門						令和2年度上半期
区分/年度		H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）
救急搬送患者受入数	目標値	7,800	8,000	8,100	8,200	救命救急センターを目指し、地域ニーズに応える診療体制を提供します。	「断らない救急」を実践しているものの、令和2年度上半期は、前年度上半期と比べ、救急搬送患者受入数が801件、救急車搬送のうち入院となった患者さんは220件減少しました。救急搬送患者のうち、入院となった患者さんの割合は0.6%増加しました。特に小児科、神経内科などの救急搬送患者受入数の減少が大きく、新型コロナウイルス感染症の影響により地域の救急患者数が減少したことや令和元年10月に常勤の神経内科医が1人減少したことにより、12月中旬頃から神経内科疾患の救急受入制限を行ったことなどが要因と考えています。
	上半期実績	3,933	4,412	4,771	3,970		
	年間実績	8,047	9,123	9,120			
H28実績：7,854	評価	B	B	B	-		
救急車搬送患者入院患者数	目標値	2,500	2,650	2,750	2,850		今後も、救急受入体制を充実し、搬送件数の増加に対応するとともに、患者さんや市民の皆さんからの信頼の確保に努めます。
	上半期実績	1,174	1,299	1,446	1,226		
	年間実績	2,441	2,725	2,747			
H28実績：2,420	評価	C	B	C	-		

(ウ) 通院不要的退院率（総合入院体制加算の施設基準による） 単位：%

【関係部門】	診療部門						令和2年度上半期
区分/年度		H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）
通院不要的退院率	目標値	40	40	40	40	地域医療支援病院として、地域医療連携を強化し、総合入院体制加算の施設基準を維持します。	通院不要的退院率は、地域の医療機関との連携を図る指標の一つであり、総合入院体制加算2の施設基準では40%以上であることが求められています。当院が目指すビジョンが院内の各医師に浸透してきており、毎月40%を超えています。今後も、地域医療連携を積極的に推進します。
	上半期実績	43.5	47.8	48.5*	51.0		
	年間実績	46.7	48.3	51.4			
H28実績：28.9	評価	B	A	A	-		

※通院不要的退院率= {（退院時診療情報提供書作成患者の数）+（転帰が治癒の退院患者（当該又は他の医療機関で外来受診の不要な患者）の数）} / 総退院患者数（外来化学療法又は外来放射線療法に係る専門外来・H I V等に係る専門外来・死亡を除く）×100

(エ) 手術件数 単位：件

【関係部門】	診療部門						令和2年度上半期
区分/年度		H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）
手術件数（中央手術室）	目標値	3,800	4,000	4,200	4,400	重症患者の診療を中心に行う病院として、手術室の有効利用を図り、手術件数の増加に努めます。	当院は、高度急性期及び急性期を担う病院として、「手術」、「難しい検査や処置」などの高質で高度な医療を行っていくこととしています。令和2年度上半期は、前年度上半期と比べ手術件数が398件、全身麻酔件数が330件減少しました。これは、新型コロナウイルス感染症の影響で4月から6月頃まで不急の手術を延期したことなどが大きな要因と考えています。常勤の麻酔科医が1人であり、非常に厳しい状態が続いていますが、非常勤麻酔科医の確保により、今後も、緊急の手術にも対応できる体制を整えるなど手術件数増加に向けた取組を行っています。
	上半期実績	1,850	1,938	2,033	1,635		
	年間実績	3,630	3,937	4,007			
H28実績：3,696	評価	C	C	C	-		
全身麻酔件数	目標値	2,550	2,700	2,850	3,000		診療科別では、常勤医師を確保できた呼吸器外科（手術件数24件増、全身麻酔件数24件増）などで前年度上半期と比べ増加したものの、その他の大部分の診療科で手術件数、全身麻酔件数が減少しました。
	上半期実績	1,213	1,342	1,447	1,117		
	年間実績	2,473	2,764	2,911			
H28実績：2,484	評価	C	B	B	-		

(オ) 紹介率・逆紹介率 単位：%

【関係部門】	診療部門、地域医療支援部門						令和2年度上半期
区分/年度		H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）
紹介率	目標値	68.0	72.0	76.0	80.0	地域医療支援病院として、紹介及び逆紹介を積極的に行います。	当院は、「地域医療支援病院」の指定を受ける公立病院として、国が進める医療の機能分化を推進しており、地域の医療機関との連携は不可欠です。令和2年度上半期は、新型コロナウイルス感染症の影響でこれまで実施してきたクロスミーティング（開業医との連携の会）は開催できなかったものの、当院の診療内容や医師を紹介する冊子「平塚市民病院 診療のご案内」を更新し、地域の医療機関に配付するなど情報提供を行いました。
	上半期実績	68.5	-	74.9	77.8		
	年間実績	67.3	71.4	78.6			
H28実績：62.3	評価	C	C	B	-		
逆紹介率	目標値	85.0	90.0	95.0	100.0		患者数は減少しているものの、紹介率や逆紹介率は増えていることから、患者数の減少は特に紹介の患者さん以外の初診患者が大きく減少したことによるものです。
	上半期実績	89.4	93.0	100.3	111.1		
	年間実績	92.6	98.4	108.0			
H28実績：86.6	評価	B	B	B	-		

※紹介率=紹介患者の数(初診に限る) / { (初診患者の数(初診料算定患者))- (救急自動車により搬入された患者数(初診に限る))- (休日又は夜間に受診した救急患者数(初診に限る))- (健康診断を目的とする受診により、治療の必要性を認め治療を開始した患者数(初診に限る)) } ×100

※逆紹介率=逆紹介患者の数(診療情報提供料算定患者数) / { (初診患者の数(初診料算定患者))- (救急自動車により搬入された患者数(初診に限る))- (休日又は夜間に受診した救急患者数(初診に限る))- (健康診断を目的とする受診により、治療の必要性を認め治療を開始した患者数(初診に限る)) } ×100

II 患者満足の視点

評価	-
----	---

評価は、目標に対して「150%以上：S」「120%以上150%未満：A」「100%以上120%未満：B」「70%以上100%未満：C」「70%未満：D」とし、経営戦略（視点）は各KPIの達成率の平均で評価

令和2年度上半期（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）						
<p>令和2年度は、前年度に引き続き、平塚・中郡地域の産科・小児科の二次救急当番を当院のみで担っています。また、平塚・中郡地域で唯一分娩ができる政策的医療を担う病院として、市民の皆さんの安心・安全に寄与しています。「産科、小児科の救急受診患者受入数」、「分娩件数」などは減少していますが、新型コロナウイルス感染症対策を図り、安心して受診できる環境を整えています。</p> <p>患者さんに対する情報発信については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、講座を実施することができませんでしたが、ホームページや病院広報誌「Smile!」で新型コロナウイルス感染症に関連する情報などを発信することができました。</p> <p>今後も、職員一人ひとりが広報マンであるとの意識の下、院内での情報共有の徹底と各職員の積極的な情報収集により、患者さんや市民の皆さんに対する情報発信を戦略的に進めます。</p>						

(ア) 産科・小児科（周産期）の救急受診患者受入数 単位：件

【関係部門】		診療部門					令和2年度上半期	
区分／年度		H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）	
産科	目標値	290	300	305	315	子どもを産み育てやすい環境づくりを積極的に進めていきます。	令和2年度も令和元年度に引き続き、平塚・中郡地域における産科、小児科の二次救急当番は当院のみで担い、地域住民の皆さんの安心に寄与しています。令和2年度上半期の救急受診患者受入数については、産科が前年度上半期と比べ57件減、小児科は959件減となりました。これは、新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えや地域の救急患者数が減少したことなどが大きな要因となっていると考えています。	今後も、休日・夜間急患診療所や地域の医療機関と適切な役割分担を図るとともに、市民の皆さんの安心・安全に寄与します。
	上半期実績	164	182	216	159			
	年間実績	326	332	394				
H28実績：277	評価	B	B	A	—			
小児科	目標値	2,080	2,140	2,200	2,270			
	上半期実績	1,524	1,379	1,474	515			
	年間実績	2,737	2,756	2,673				
H28実績：3,181	評価	A	A	A	—			

(イ) 分娩件数 単位：件

【関係部門】		診療部門、看護部門					令和2年度上半期	
区分／年度		H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）	
分娩件数 (子どもの数)	目標値	490	520	550	580	二次医療圏内で唯一産科入院ができる病院として、多様な出産に対応可能な体制を整備します。	令和2年度上半期の分娩件数は前年度上半期と比べ38件減少しました。平塚市や周辺自治体で出生者数が減少していることが要因であると考えています。当院では、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から母親学級やNICU/GCU入院の際の直接授乳を中止していますが、助産師外来で入院前のフォローアップを実施しているほか、NICU/GCU入院児の母親に対して退院日に母乳外来を行うことで、退院後の授乳の不安解消に努めており、安心して出産、育児を行える環境を整えています。また、産後2週間健診により産後うつ予防に努めています。	今後も、新型コロナウイルス感染症対策を図り安心して受診できる環境を整えるとともに、引き続き質の向上に努め、「子どもを産み育てやすい環境づくり」を進めます。
	上半期実績	256	239	264	226			
	年間実績	486	450	510				
H28実績：453	評価	C	C	C	—			

(ウ) 情報発信件数 単位：件

【関係部門】		診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					令和2年度上半期	
区分／年度		H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）	
市民向け出張講座 開催数 (出前講座など)	目標値	11	12	13	15	地域の中核病院として、医療の情報を広く伝えていきます。	情報発信は、患者さんや市民の皆さん、医療関係者の方々に当院をPRし、認知度を高めるとともに、「選ばれる病院」につなげることができる取組です。また、公立病院として、医療や健康に対する市民の皆さんの関心を高め、市民満足度の向上に寄与するためにも重要です。	令和2年度上半期は、新型コロナウイルス感染症の影響で、講座、講演等の実績は大幅に減少しましたが、ホームページや広報誌「Smile!」では、当院の新型コロナウイルス感染症対策などの情報を積極的に発信しました。
	上半期実績	-	-	-	0			
	年間実績	16	16	9				
H28実績：13	評価	A	A	D	—			
市民向け院内講座 開催数	目標値	55	56	57	60			
	上半期実績	-	-	-	0			
	年間実績	33	42	34				
	評価	D	C	D	—			
医療機関向け公開 講座開催数	目標値	16	17	18	20			
	上半期実績	-	-	-	0			
	年間実績	19	25	24				
	評価	B	A	A	—			
講演講師派遣数	目標値	40	40	45	45			
	上半期実績	-	-	-	9			
	年間実績	80	71	74				
	評価	S	S	S	—			
ホームページアク セス数（月平均）	目標値	19,000	20,000	22,000	23,000			
	上半期実績	19,646	21,883	24,182	23,861			
	年間実績	18,789	21,746	23,884				
H28実績：19,200	評価	C	B	B	—			
病院広報誌 「Smile!」配布数	目標値	8,000	116,500	6,000	5,000			
	上半期実績	2,000	4,000	4,000	4,000			
	年間実績	8,000	8,000	8,000				
H28実績：8,000	評価	B	D	A	—			

III 経営・財務の視点

(ア) 経営改善に係るもの

評価	-
----	---

評価は、目標に対して「150%以上：S」「120%以上150%未満：A」「100%以上120%未満：B」「70%以上100%未満：C」「70%未満：D」とし、経営戦略（視点）は各KPIの達成率の平均で評価

令和2年度上半期（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）						
令和2年度上半期は、新型コロナウイルス感染症の影響で非常に厳しい経営状況となりました。医業収益の大幅な減少により、「医業収支比率」、「経常収支比率」、「累計現金預金額」は前年度上半期より減少しました。良質な医療の提供には、経営の安定化が不可欠であり、今後も新型コロナウイルス感染症対策を図り安心して受診できる環境を整えるとともに、医師の確保や運用病床数の拡大などによる収益増加に加え、価格交渉などの経費削減に取り組みます。						

a 医業収支比率 単位：%

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					令和2年度上半期	
区分/年度	H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）	
医業収支比率	目標値	83.3	89.4	90.6	92.7	健全経営を実施するため、医業収支比率の向上に努めます。	<p>医業収支比率の改善には、医業収益の増加に加え、医業費用の削減又は増加の抑制が必要です。令和2年度上半期は、前年度上半期と比べ医業収益が減少した一方で、医業費用は増加し、医業収支比率は17.8%減少しました。医業収益は約10億4,500万円減少しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で4月から6月頃まで不急の手術を延期したことや感染症病棟を設置したこと、神経内科や呼吸器内科の常勤医師が減少したことなどによる患者数減少が大きな要因と考えています。一方で、医業費用は、約8,300万円増加しています。患者数減少に伴い、材料費が減少しているものの、麻酔科などの臨時医師の賃金や新型コロナウイルス感染症対応に係る検査委託などが増加しています。</p> <p>今後も、新型コロナウイルス感染症対策を図り安心して受診できる環境を整えるとともに、医師の確保等による診療領域の拡大や看護師の確保による病床の再稼働により収益の増加を図ります。さらに、価格交渉による材料費の抑制を進めます。また、患者さんや市民の皆さんから信頼を得て「選ばれる病院」となるように努めます。</p>
	上半期実績	93.8	96.7	95.9※	78.1		
	年間実績	83.1	90.9	90.2	-		
H28実績：86.3	評価	C	B	C	-		

※医業収支比率=（医業収益）/（医業費用）×100

※精査の結果、令和元年度評価時点から変更になっています。

b 経常収支比率 単位：%

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					令和2年度上半期	
区分/年度	H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）	
経常収支比率	目標値	92.7	95.8	96.5	98.0	健全経営を実施するため、経常収支比率100%以上を目指します。	<p>経常収支比率の改善には、収益の増加に加え、費用の削減又は増加の抑制が必要です。令和2年度上半期は、前年度上半期と比べ16.5%減少しました。これは、新型コロナウイルス感染症の影響で4月から6月頃まで不急の手術を延期したことや感染症病棟を設置したこと、神経内科や呼吸器内科の常勤医師が減少したことなどによる医業収益の減少が、大きな原因と考えています。</p> <p>今後も、新型コロナウイルス感染症対策を図り安心して受診できる環境を整えるとともに、医師の確保等による診療領域の拡大や看護師の確保による病床の再稼働により収益の増加を図ります。さらに、価格交渉による材料費の抑制を進めます。また、患者さんや市民の皆さんから信頼を得て「選ばれる病院」となるように努めます。</p>
	上半期実績	112.4	106.1	104.9※	88.4		
	年間実績	93.5	100.9	99.6	-		
H28実績：93.9	評価	B	B	B	-		

※経常収支比率= {（医業収益）+（医業外収益）} / {（医業費用）+（医業外費用）} ×100

※精査の結果、令和元年度評価時点から変更になっています。

c 現金預金残高 単位：百万円

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					令和2年度上半期	
区分/年度	H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）	
現年度現金預金額	目標値	427	387	▲182	147	健全経営を実施し、現金預金が不足しないよう努めます。	令和2年9月末時点の累計現金預金額は、前年度末時点と比べ約5億7,400万円減少しました。これは、医業収益の減少などが主な要因と考えています。今後も、引き続き収益確保、経費削減により、健全経営に努めるとともに、常に資金状況を見据え、資金不足が生じないよう的確な運営に努めます。
	上半期実績	225	24	221	▲574		
	年間実績	500	290	125	-		
H28実績：81	評価	B	C	S	-		
累計現金預金額	目標値	723	1,110	928	1,075	健全経営を実施し、現金預金が不足しないよう努めます。	令和2年9月末時点の累計現金預金額は、前年度末時点と比べ約5億7,400万円減少しました。これは、医業収益の減少などが主な要因と考えています。今後も、引き続き収益確保、経費削減により、健全経営に努めるとともに、常に資金状況を見据え、資金不足が生じないよう的確な運営に努めます。
	上半期実績	1,048※1	1,347※1	1,835※1	1,165※1		
	年間実績	1,324※2	1,614※2	1,738※2	-		
H29.3末実績：824	評価	S	A	S	-		

※1：各年度9月30日時点

※2：各年度3月31日時点

(イ) 経費削減に係るもの

評価	-
----	---

評価は、目標に対して「150%以上：S」「120%以上150%未満：A」「100%以上120%未満：B」「70%以上100%未満：C」「70%未満：D」とし、経営戦略（視点）は各KPIの達成率の平均で評価

令和2年度上半期（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

令和2年度上半期は、新型コロナウイルス感染症の影響で医療収益が10億4,500万円減少したため、「薬品費対医療収益比率」、「診療材料費対医療収益比率」、「職員給与費対医療収益比率」は、前年度上半期と比べ上昇しました。一方で、「後発医薬品の使用割合」は、引き続き高い水準を維持しています。

今後も、診療領域や運用病床数の拡大のために必要な人員確保は行うものの、業務及び勤務内容の見直しや時間外勤務の抑制などにより、効率の良い働き方を構築し、最大の成果を上げるとともに、価格交渉により支出の削減に努めます。

a 薬品費対医療収益比率

単位：%

【関係部門】		診療部門、薬剤部門、事務部門					令和2年度上半期	
区分/年度		H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）	
薬品費 対医療収益比率	目標値	10.8	11.5	11.5	11.5	医療収益の増加と薬品購入費の抑制に努めます。	新型コロナウイルス感染症の影響による患者数減少や薬品の価格交渉により令和2年度上半期の薬品費は前年度上半期と比べ約1,200万円減少しましたが、医療収益も約10億4,500万円減少したことから、薬品費対医療収益比率は、2.8%上昇しました。これは、高額な薬剤による治療が必要な患者さんについては、着実に診療を行ったことにより、医療収益の減少ほどは、薬品費が減少しなかったことが要因と考えています。 今後も、引き続き薬品の価格交渉を進めるとともに、医療収益の更なる増加を図り、目標達成を目指します。	
	上半期実績	11.2	11.8	14.6※	17.4			
	年間実績	9.8	10.3	11.7				
H28実績：10.3	評価	B	B	C	-			

※薬品費対医療収益比率=（薬品費）/（医療収益）×100

※精査の結果、令和元年度評価時点から変更になっています。

b 診療材料費対医療収益比率

単位：%

【関係部門】		診療部門、事務部門					令和2年度上半期	
区分/年度		H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）	
診療材料費 対医療収益比率	目標値	10.8	12.4	12.4	12.4	医療収益の増加と診療材料費の抑制に努めます。	令和2年度上半期は、前年度上半期と比べ診療材料費が約1億1,400万円減少しているものの、医療収益が約10億4,500万円減少したことから、診療材料費対医療収益比率は、0.2%上昇しました。 今後も、引き続き診療材料の価格交渉や見直しを進めるとともに、医療収益の更なる増加を図り、目標達成を目指します。	
	上半期実績	11.2	11.5	11.9※	12.1			
	年間実績	10.1	10.6	10.7				
H28実績：10.6	評価	B	B	B	-			

※診療材料費対医療収益比率=（診療材料費）/（医療収益）×100

※精査の結果、令和元年度評価時点から変更になっています。

c 職員給与費対医療収益比率

単位：%

【関係部門】		診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					令和2年度上半期	
区分/年度		H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）	
職員給与費 対医療収益比率	目標値	64.5	57.9	57.4	55.4	医療収益の増加と給与費の抑制に努め、比率を下げます。	令和2年度上半期は、前年度上半期と比べ医療収益が約10億4,500万円減少している一方で、給与費が約1億5,100万円増加したことから、職員給与費対医療収益比率は13.7%上昇しました。給与費の増加は、特に賃金の増加が大きく、麻酔科や救急科の常勤医師を補うために、常勤医師よりも支出が増える非常勤医師を雇用している影響が大きいと考えています。また、職員数の増加も影響していると考えています。 今後も、診療領域や運用病床数の拡大のために必要な人材確保に努め、効果的な人員配置により、目標達成を目指します。	
	上半期実績	54.8	51.8	50.3※	64.0			
	年間実績	65.8	61.2	61.3				
H28実績：65.8	評価	C	C	C	-			

※職員給与費対医療収益比率=（給与費）/（医療収益）×100

※精査の結果、令和元年度評価時点から変更になっています。

d 後発医薬品の使用割合

（使用量ベースによる割合）

単位：%

【関係部門】		診療部門、薬剤部門、事務部門					令和2年度上半期	
区分/年度		H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）	
後発医薬品の 使用割合	目標値	84	85	86	87	可能な限り後発医薬品への切替えを行い、薬品購入費の抑制と後発医薬品係数の増加に努めます。	継続的に後発医薬品への切替えを進めており、後発医薬品の使用割合は高い水準を維持しています。 今後も、引き続き取組を進めます。	
	上半期実績	-	94.1	93.7	93.2			
	年間実績	91.5	94.3	94.4				
H28実績：85.5	評価	B	B	B	-			

※後発医薬品の使用割合=（後発医薬品）/ {（後発医薬品のある先発医薬品）+（後発医薬品）} ×100

(ウ) 収入確保に係るもの

評価	-
----	---

評価は、目標に対して「150%以上：S」「120%以上150%未満：A」「100%以上120%未満：B」「70%以上100%未満：C」「70%未満：D」とし、経営戦略（視点）は各KPIの達成率の平均で評価

令和2年度上半期（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）

令和2年度上半期は、新型コロナウイルス感染症の影響で非常に厳しい経営状況となりました。新型コロナウイルス感染症の影響による不急手術の延期、感染症病棟の設置や受診控えのほか、神経内科や呼吸器内科の常勤医師が減少したことなどにより、「1日当たり平均入院患者数」が減少するとともに、「1日当たり平均外来患者数」も想定以上に減少しました。しかし、診療が必要な患者さんに対する対応は着実に実施しており、「入院診療単価」は診療実績を基に算定すると前年度上半期と同水準を維持しており、「外来診療単価」は上昇しました。入院、外来共に当院が目指す方向に沿った成果が出てきていますが、今後も患者さんや市民の皆さんから信頼を得て「選ばれる病院」となるように努めます。

a 1日当たり平均入院患者数 単位：人

【関係部門】		診療部門、地域医療支援部門					令和2年度上半期	
区分／年度		H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）	
全体計	目標値	351	351	350	370	入院ベッドの有効利用に努め、病床利用率の向上を図ります。	令和2年度上半期の1日当たり平均入院患者数は、前年度上半期と比べ47.3人減少しました。これは、新型コロナウイルス感染症の影響で4月から6月頃まで不急の手術を延期したことや感染症病棟を設置したことなどが大きな要因となっていると考えていますが、常勤医師が減少した神経内科や呼吸器内科などにおいて、患者数の減少がより大きくなっています。 今後も、新型コロナウイルス感染症対策を図り安心して受診できる環境を整えるとともに、医師の確保等による診療領域の拡大や、看護師の確保による運用病床数の拡大のほか、必要な人員を配置し、患者さんや市民の皆さんから信頼を得て「選ばれる病院」となるように努めることで、目標達成を目指します。	
	上半期実績	325.9	345.5	352.5	305.2			
	年間実績	327.7	350.1	348.9				
H28実績：353.4	評価	C	C	C	-			

b 1日当たり平均外来患者数 単位：人

【関係部門】		診療部門、地域医療支援部門					令和2年度上半期	
区分／年度		H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）	
全体計	目標値	915	887	852	824	高度急性期及び急性期を担い入院中心の診療を行うため、逆紹介を推進し、外来患者数の抑制を行います。	高度急性期及び急性期を担う病院として、外来患者については、救急・紹介の患者さんを中心に診療し、急性期の治療を終えた患者さんについては、病状に適した医療機関を紹介することを徹底しています。令和2年度上半期は、前年度上半期と比べ146人減少していますが、特に小児科や整形外科の外来患者数の減少数、減少率が大きく、新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えなどの影響が大きいと考えています。 今後も、引き続き地域医療連携を進めます。	
	上半期実績	877.4	836.3	839.3	693.3			
	年間実績	865.8	846.2	829.0				
H28実績：924.3	評価	B	B	B	-			

c 入院診療単価 単位：円

【関係部門】		診療部門					令和2年度上半期	
区分／年度		H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）	
全体計	目標値	63,100	67,050	68,750	69,690	高度な医療を担う病院として、診療密度の高い診療を行うことで単価の上昇を図ります。	令和2年度上半期の入院診療単価は、前年度上半期と比べ約6,300円減少しました。これは、新型コロナウイルス感染症に係る診療報酬の請求に時間を要したことにより、収益として計上できていない部分があるためです。令和2年度上半期は新型コロナウイルス感染症の影響で患者数は減少したものの、診療が必要な患者さんへの対応は着実に実施しており、診療実績を基に算定すると、入院診療単価は前年度上半期と同水準となっています。 今後も、新型コロナウイルス感染症対策を図り安心して受診できる環境を整えるとともに、必要な人員の配置により、地域医療連携を推進するほか、患者さんや市民の皆さんからの信頼を得て「選ばれる病院」となるように努めます。	
	上半期実績	62,136	65,208	66,539※	60,282			
	年間実績	63,469	66,953	67,307				
H28実績：56,879	評価	B	C	C	-			

※精査の結果、令和元年度評価時点から変更になっています。

d 外来診療単価 単位：円

【関係部門】		診療部門					令和2年度上半期	
区分／年度		H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）	
全体計	目標値	12,130	12,460	12,840	13,250	救急と紹介を中心とした外来診療を行い、病状が安定した患者さんは逆紹介を行います。	地域医療連携を推進する中で、かかりつけ医との役割分担など機能分化が進み、高度急性期及び急性期を担う病院として重症患者を中心とした診療を行っています。令和2年度上半期は、新型コロナウイルス感染症の影響もありましたが、精度の高い検査を伴う外来治療や外来化学療法、高額な薬剤による治療が必要な患者さんなど重症患者には対応しており、外来診療単価は、前年度と比べ約2,300円増加しました。 今後も、引き続き地域医療連携を進めます。	
	上半期実績	12,162	13,811	15,071※	17,359			
	年間実績	13,031	14,341	15,463				
H28実績：11,969	評価	B	B	A	-			

※精査の結果、令和元年度評価時点から変更になっています。

e 医師及び看護師1人当たり入院診療収入 単位：千円

【関係部門】		診療部門、看護部門					令和2年度上半期	
区分／年度		H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）	
医師	目標値	86,040	89,520	90,160	94,100	常勤の医療職の確保及び適正配置をし、効率的に収益を確保します。	令和2年度上半期は、常勤医師数は1名減少、常勤看護師数は増加していますが、新型コロナウイルス感染症の影響で4月から6月頃まで不急の手術を延期したことや感染症病棟を設置したこと、神経内科や呼吸器内科の常勤医師が減少したことなどによる患者数減少で、入院収益が約9億2,600万円減少したことにより、前年度上半期と比べ、医師、看護師ともに1人当たりの入院診療収入は減少しました。 今後も、新型コロナウイルス感染症対策を図り安心して受診できる環境を整えるとともに、医師の確保等による診療領域の拡大や看護師の確保による運用病床数の拡大のほか、患者さんや市民の皆さんからの信頼を得て「選ばれる病院」となるように努めます。	
	上半期実績	40,959	43,094	45,542※	35,485			
	年間実績	85,448	89,911	93,065※				
H28実績：80,169	評価	C	B	B	-			
看護師	目標値	22,470	23,230	23,250	24,130	常勤の医療職の確保及び適正配置をし、効率的に収益を確保します。	令和2年度上半期は、常勤医師数は1名減少、常勤看護師数は増加していますが、新型コロナウイルス感染症の影響で4月から6月頃まで不急の手術を延期したことや感染症病棟を設置したこと、神経内科や呼吸器内科の常勤医師が減少したことなどによる患者数減少で、入院収益が約9億2,600万円減少したことにより、前年度上半期と比べ、医師、看護師ともに1人当たりの入院診療収入は減少しました。 今後も、新型コロナウイルス感染症対策を図り安心して受診できる環境を整えるとともに、医師の確保等による診療領域の拡大や看護師の確保による運用病床数の拡大のほか、患者さんや市民の皆さんからの信頼を得て「選ばれる病院」となるように努めます。	
	上半期実績	9,920	10,645	10,727※	8,174			
	年間実績	20,461	22,247	21,776※				
H28実績：21,094	評価	C	C	C	-			

※精査の結果、令和元年度評価時点から変更になっています。

f 医師及び看護師1人当たり外来診療収入

単位：千円

【関係部門】	診療部門、看護部門	令和2年度上半期				
区分/年度	H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）
医師	目標値	28,940	28,100	27,340	26,630	令和2年度上半期は、常勤医師数は1人減少、常勤看護師数は増加していますが、新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えなどによる患者数減少で、外来収益が約1億円減少したことにより、前年度上半期と比べ、医師、看護師ともに1人当たりの外来診療収入は減少しました。 今後も、新型コロナウイルス感染症対策を図り安心して受診できる環境を整えるとともに、高度急性期及び急性期病院として求められる体制や機能の強化に努めます。
	上半期実績	14,622	14,973	16,635※	15,473	
	年間実績	30,988	31,123	33,722※		
H28実績：29,388	評価	C	C	C	—	
看護師	目標値	7,560	7,290	7,050	6,830	
	上半期実績	3,543	3,699	3,918※	3,565	
	年間実績	7,421	7,700	7,890※		
H28実績：7,732	評価	B	C	C	—	

※精査の結果、令和元年度評価時点から変更になっています。

g 病床利用率

単位：%

【関係部門】	診療部門、看護部門	令和2年度上半期					
区分/年度	H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）	
全体計	目標値	85.6	90.0	90.0	90.2	令和2年度上半期の病床利用率は、前年度上半期と比べ全ての病床で減少しました。特に小児科病床は39.1%、GCUは35.6%の減少となっており、減少幅が大きくなっています。これは、新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えや4月から6月頃まで不急の手術を延期したこと、感染症病棟を設置したことなどが大きな要因となっていると考えています。 今後も、新型コロナウイルス感染症対策を図り安心して受診できる環境を整えるとともに、医師の確保等による診療領域の拡大や、看護師の確保による運用病床数の拡大のほか、必要な人員を配置し、患者さんや市民の皆さんから信頼を得て「選ばれる病院」となるように努めます。	
	上半期実績	91.5	92.5	89.5	75.9		
	年間実績	91.4	92.2	87.6			
	評価	B	B	C	—		
	参考1	79.9	85.4	85.1	74.4		—
	参考2	83.9	84.8	80.6	70.2		—
一般病床	目標値	88.3	94.0	94.0	94.0		
	上半期実績	96.7	97.9	93.3	81.3		
	年間実績	96.9	97.3	91.5			
	評価	B	B	C	—		
	参考1	81.8	88.4	88.2	79.3	—	
産科病床	目標値	90.0	90.0	90.0	90.0		
	上半期実績	86.3	85.8	81.1	73.7		
	年間実績	85.7	85.8	82.9			
	評価	C	C	C	—		
小児科病床	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0		
	上半期実績	76.3	62.8	65.8	26.7		
	年間実績	68.8	62.7	61.2			
	評価	C	C	C	—		
ICU/CCU (集中治療室)	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0		
	上半期実績	65.7	67.9	68.3	53.6		
	年間実績	68.0	70.8	67.5			
	評価	C	B	C	—		
NICU(新生児特定 集中治療室)	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0		
	上半期実績	51.2	45.7	71.0	60.1		
	年間実績	46.0	41.0	63.0			
	評価	D	D	C	—		
GCU(継続保育治 療室)	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0		
	上半期実績	54.7	57.0	81.6	46.0		
	年間実績	51.7	51.9	73.4			
	評価	C	C	B	—		
救急病床	目標値	70.0	70.0	70.0	70.0		
	上半期実績	73.7	83.1	78.5	66.7		
	年間実績	77.6	86.1	77.2			
	評価	B	A	B	—		
	参考1	77.6	86.1	77.2	66.7	—	

※病床利用率は、(入院延患者数) / (稼働病床(新型コロナウイルス感染症対応のための病床休止等は加味していない。)ベースでの延病床数) × 100で算出していますが、参考1「(入院延患者数) / (許可病床ベースでの延病床数) × 100」、参考2「(退院患者を除外した延患者数) / (稼働病床ベースでの延病床数) × 100」を記載しています。

h 平均在院日数

単位：日

【関係部門】		診療部門、看護部門、地域医療支援部門					令和2年度上半期	
区分／年度		H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）	
平均在院日数	目標値	10.1	9.9	9.7	9.5	高度急性期及び急性期を担う病院として、地域医療連携を推進し、病状が安定した患者さんは後方連携を積極的にいき、在院日数の短縮を図ります。	クリニカルパス等効率的な治療の推進や計画的な退院支援、地域医療連携の取組強化などを行ったものの、令和2年度上半期の平均在院日数は、前年度と比べ0.4日長くなりました。 今後も、高度医療及び急性期医療を担う病院として、計画的な入院治療を行い、急性期治療を終えた患者さんについては、病状に適した医療機関への紹介を徹底することで、平均在院日数の短縮に努めます。	
	上半期実績	10.0	10.3	10.1	10.5			
	年間実績	10.1	10.2	10.4				
H28実績：10.5	評価	B	C	C	—			

(エ) 経営の安定化に係るもの

評価	-
----	---

評価は、目標に対して「150%以上：S」「120%以上150%未満：A」「100%以上120%未満：B」「70%以上100%未満：C」「70%未満：D」とし、経営戦略（視点）は各KPIの達成率の平均で評価。

令和2年度上半期（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）	
<p>当院は、地域や立地などの点から、医療スタッフの確保が難しい面があります。医師については、さまざまな取組を行っていますが、十分に配置できていません。また、看護師についても職員数は増えていますが、退職者数なども見極めながら引き続き質の高い看護師を確保していく必要があります。働き方改革などにより医師を中心とした人材の採用がますます厳しくなっていますが、当院の魅力や強みを積極的にPRするとともに、丁寧なフォローをすることで必要な医療スタッフを確実に獲得し、診療領域の拡大などにより、経営安定化を目指しています。</p> <p>今後も良質な医療を継続して提供し、収益を増加させるために、必要な人材を積極的に採用します。</p>	

a 医師数

単位：人

【関係部門】		診療部門、事務部門					令和2年度上半期	
区分／年度		H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）	
常勤医師数	目標値	94	96	98	100	医療の質の向上と医業収益を確保するため、必要な医師数を確保します。	安定的かつ効率的に質の高い医療を提供し、収益を上げるためには、常勤医の確保が必要です。令和2年度は前年度より1人減少し、目標には達しませんでした。 医師確保のための活動を積極的に行い、医師数が少ない診療科、欠員が生じている診療科を中心に診療体制の充実を図るとともに、診療領域の拡大を目指します。	
	実績	91※ (90※)	95※ (94※)	97※ (93※)	96※ (95※)			
	H28.4.1：92	評価	C	C	C			—

※各年度4月1日時点。()内は、退職者等を除く定数条例上職員数。また、目標値は職員定数とは異なります。

b 看護師数

単位：人

【関係部門】		看護部門、事務部門					令和2年度上半期	
区分／年度		H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）	
常勤看護師数	目標値	360	370	380	390	医療の質の向上と医業収益を確保するため、必要な看護師数を確保します。	令和2年度は、4月1日付で45人採用し、前年度より12人増加しました。また、5月以降は2人採用しています。令和2年度上半期は、新型コロナウイルス感染症の影響で、看護学生の実習受け入れや県内外の学校訪問の実施、合同就職説明会への参加が予定どおり実施できませんでしたが、ホームページに看護部紹介動画を掲載したほかオンライン面接の実施などにより看護師の確保に努めました。 今後は、オンラインでの説明会など新たな取組を行い、当院の特長を活かし、積極的な看護師の確保・定着に努めます。	
	実績	378※ (362※)	387※ (365※)	407※ (384※)	419 (399※)			
	H28.4.1：354	評価	B	B	B			—

※各年度4月1日時点。()内は、退職者等を除く定数条例上職員数。また、目標値は職員定数とは異なります。

IV 職員の学習と成長の視点

評価	-
----	---

評価は、目標に対して「150%以上：S」「120%以上150%未満：A」「100%以上120%未満：B」「70%以上100%未満：C」「70%未満：D」とし、経営戦略（視点）は各KPIの達成率の平均で評価

令和2年度上半期（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）	
<p>職員の教育・育成は、当院の基本方針にも位置付けられる重要な要素です。</p> <p>令和2年度上半期は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から研修を予定どおり実施することができませんでした。</p> <p>今後は、オンラインの活用など様々な工夫により、職員の教育・育成を行うほか、教育の場の充実やキャリアアップ制度の整備により、学びたい職員を支援する環境を整え、職員の育成、能力向上を図ります。当院は質の高い職員を育成するために、成長の機会を提供し、成長が実感できる、職員にとって魅力ある環境の整備が必要であると考えています。</p>	

(ア) 職員向け院内研修会の1人当たりの参加数

単位：回

【関係部門】		診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					令和2年度上半期	
区分／年度		H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）	
職員向け院内研修会の1人当たりの参加数	目標値	5	5	6	6	病院の質を向上させ、全職員一体となって経営に参画する意識を持つよう、参加者数の増加に努めます。	院内では、さまざまな職員向けの研修会を開催し、職員の資質向上に向けた学習の場を提供しています。令和2年度上半期は、新型コロナウイルス感染症の影響で多くの研修が中止となったため、職員1人当たりの参加数は減少していますが、必要な研修は着実に実施しました。 今後は、職員の学習意欲を醸成し、参加しやすい環境を整えることで、病院の質の向上につなげます。	
	上半期実績	2.6	2.1	2.1	0.2			
	年間実績	5.4	4.2	4.3				
	評価	B	C	C	—			

(イ) 有資格者数

単位：人

【関係部門】		診療部門、看護部門					令和2年度上半期	
区分／年度		H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）	
基本領域専門医数	目標値	53	54	55	56	高度急性期及び急性期を担う病院として、医療の質を向上させるため、質の高い医療職を確保します。	令和2年度は医師の入れ替わりなどもあり、基本領域専門医数は増加しました。 今後は、引き続き職員がスキルアップできる環境を充実させ、質の高い医療の提供につなげていきたいと考えています。	
	実績	54※	56※	46※	47※			
	評価	B	B	C	—			
認定看護師数	目標値	17	19	21	23			
	実績	14※	16※	17※	17※			
	評価	C	C	C	—			

※各年度10月1日時点。正規職員の数。

※令和元年度及び令和2年度の「基本領域専門医数」の実績は、新専門医制度で基本領域と扱われている専門医資格を有する人数です。

V 社会貢献の視点

評価 -

評価は、目標に対して「150%以上：S」「120%以上150%未満：A」「100%以上120%未満：B」「70%以上100%未満：C」「70%未満：D」とし、経営戦略（視点）は各KPIの達成率の平均で評価

令和2年度上半期（病院事業管理者、病院長、副病院長評価）						
地域の中核病院として、救急医療、災害医療や人材育成、情報発信などさまざまな分野での社会貢献に積極的に取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症対応では、第二種感染症指定医療機関として地域で必要とされる医療を担っています。今後も地域や社会のニーズを踏まえ、地域に出て活動することで、広く社会全体に貢献し、当院の存在価値を高めていきます。						

(ア) 社会貢献活動の実施数

単位：件・人

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門	令和2年度上半期				
区分/年度	H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）
救急ワークステーションでの 医師出動件数	目標値	150	150	150	150	当院は災害拠点病院として、様々な活動を行ってきましたが、令和2年度上半期は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、多くの訓練が中止となりました。 今後も、災害医療企画室が中心となり、さまざまな訓練等を実施することで、公立病院として、また、災害拠点病院としての役割を果たしていきます。また、県から救命救急センターの指定を受け、「断らない救急」を目標としていることから、救急隊との連携を充実させる取組を行っています。
	上半期実績	63	68	97	75	
	年間実績	157	150	208		
	評価	B	B	A	—	
災害医療関係行事 数	目標値	10	10	10	10	
	上半期実績	6	6	7	1	
	年間実績	10	9	10		
	評価	B	C	B	—	
H28実績：11	評価	B	C	B	—	
救急救命士 病院実習受入人数	目標値	55	55	55	55	
	上半期実績	27	35	61	62	
	年間実績	57	84	72		
	評価	B	S	A	—	
H28実績：52	評価	B	S	A	—	

(イ) 学会及び論文研究発表件数

単位：件

【関係部門】	診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門	令和2年度上半期				
区分/年度	H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）
診療部門	目標値	170	175	180	185	研究会において研究成果を発表することは、社会貢献や職員の能力向上のほか、病院の活動を周知することにもつながります。令和2年度上半期は、新型コロナウイルス感染症の影響で、中止になる学会等もあり、発表件数は減少していますが、WEBで開催された学会等においては、積極的に研究発表を行いました。今後も、研究活動を支援し、それらの成果を社会に還元できるよう努めます。
	上半期実績	-	-	-	43	
	年間実績	191	220	214		
	評価	B	A	B	—	
H28実績：178	評価	B	A	B	—	
看護部門	目標値	5	5	6	6	
	上半期実績	-	-	-	0	
	年間実績	4	10	8		
	評価	C	S	A	—	
H28実績：8	評価	C	S	A	—	
その他	目標値	30	32	34	36	
	上半期実績	-	-	-	3	
	年間実績	19	19	19		
	評価	D	D	D	—	
H28実績：22	評価	D	D	D	—	

(ウ) 学生実習受入人数

単位：人

【関係部門】		診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門					令和2年度上半期	
区分/年度		H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）	
医師	目標値	17	18	19	20	新たな医療職を育てる教育施設として、積極的に受け入れを行います。	社会貢献の観点から、各部署とも人材育成や学生教育のため、積極的に学生を受け入れていますが、令和2年度上半期は、新型コロナウイルス感染症の影響で受け入れなかった時期があるため、前年度上半期の実績値を下回っています。 当院では、各学校の教育方針、個々の学生の習熟度に応じ、担当者が実習生の対応をしており、受入れや教育に関わることで職員自身の成長にもつながっています。今後も可能な範囲で積極的に受け入れを行い、引き続き人材育成に取り組んでいきます。	
	上半期実績	9	—	11	0			
	年間実績	16	15	16	—			
	評価	C	C	C	—			
看護師・助産師	目標値	520	520	520	520			
	上半期実績	249	237	270	55			
	年間実績	446	466	416	—			
	H28実績：438	評価	C	C	C			—
薬剤師	目標値	1	4	4	4			
	上半期実績	1	2	5	4			
	年間実績	1	2	5	—			
	H28実績：2	評価	B	D	A			—
リハビリテーション技師	目標値	7	7	7	7			
	上半期実績	4	6	2	0			
	年間実績	6	8	4	—			
	H28実績：7	評価	C	B	D			—
放射線技師	目標値	1	1	2	2			
	上半期実績	2	2	2	1			
	年間実績	2	2	4	—			
	H28実績：0	評価	S	S	S			—
臨床工学技士	目標値	7	7	7	7			
	上半期実績	9	13	9	0			
	年間実績	9	13	9	—			
	H28実績：7	評価	A	S	A	—		
臨床検査技師	目標値	2	2	2	2			
	上半期実績	3	3	3	0			
	年間実績	3	3	3	—			
	H28実績：2	評価	S	S	S	—		
管理栄養士	目標値	8	10	10	10			
	上半期実績	2	2	2	1			
	年間実績	10	10	8	—			
	H28実績：6	評価	A	B	C	—		

(エ) 講座及び講演数

単位：件

【関係部門】		診療部門、看護部門、薬剤部門、医療技術部門、医療安全管理部門、地域医療支援部門、事務部門					令和2年度上半期	
区分/年度		H29	H30	R1	R2	R3~R7	評価・検証（部門の長）	
市民向け出張講座開催数	目標値	11	12	13	15	地域の中核病院として、医療の情報を広く伝えていきます。	情報発信は、患者さんや市民の皆さん、医療関係者の方々に当院をPRし、認知度を高めるとともに、「選ばれる病院」につなげることができる取組です。また、公立病院として、医療や健康に対する市民の皆さんの関心を高め、市民満足度の向上に寄与するためにも重要です。 令和2年度上半期は、新型コロナウイルス感染症の影響で、講座、講演等の実績は大幅に減少しました。 今後も、市の施策や病院の方針などを踏まえ戦略的に展開し、より幅広い層への情報発信の機会を設けていくことにより、患者・市民サービスを向上させ、信頼が得られるよう努めます。	
	上半期実績	-	-	-	0			
	年間実績	16	16	9	—			
	H28実績：13	評価	A	A	D			—
市民向け院内講座開催数	目標値	55	56	57	60			
	上半期実績	-	-	-	0			
	年間実績	33	42	34	—			
	評価	D	C	D	—			
医療機関向け公開講座開催数	目標値	16	17	18	20			
	上半期実績	-	-	-	0			
	年間実績	19	25	24	—			
	評価	B	A	A	—			
講演講師派遣数	目標値	40	40	45	45			
	上半期実績	-	-	-	9			
	年間実績	80	71	74	—			
	評価	S	S	S	—			